

令和6年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会
わかば幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の理念に基づいて子どもの自立を促す保育を目標に保育目標を掲げ、年間目標、保育計画を作成している。毎年振り返りを行い、保育士の意見をもとに見直している。個々の子どもの発達を踏まえ、生活の中で、幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるように努めていった。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	保育士は一人ひとりの子どもの様子を把握し、子どもたちの発達に応じた環境作りについての意見を出し合い、子どもたちが過ごしやすい部屋の配置替えやコーナー作りに努めていった。 当番活動等を通して、仕事に対する責任感や人に対する思いやり、優しい心が育つ保育に努めた。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	保育の中でケース会議や、園内研修を行い、保育理念や保育方法について意見を出し合い、共通理解・共通実践をし、保育者としての資質向上に努めた。 子ども一人ひとりの人格を尊重し、発達段階に合った保育を進めるように努めた。
IV 保護者への対応・支援	送迎時には一日の様子を伝え、信頼関係を深めながら、子どもの成長を共に喜んでいった。保護者に対する守秘義務厳守は周知し守りながら、個別に支援している子どもには、助言を行い、保護者と一緒に成長を見守っていった。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	地域の要請に対して積極的に参加し、自治協議会の「こいのぼり」づくりや道の駅の「かかし」づくり、「おひなさまづくり」等協力するように努めていった。 一時保育事業や、休日保育事業を行い、子育て支援センターと連携を取りながら地域の子どもの子育て支援に参加している。 市の社会福祉法人主催のプロジェクトにも会員として参加し、活動を行っている。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	県の保育協会、保育士会等の研修、園内研修に参加し、職員の資質向上につなげた。 市内研修のテーマに沿った研修を進め子どもの成長を見守りながら自己研鑽に努めていった。